Child Assault Prevention

CAPプログラムって?

CAPとは Child Assault Prevention（子どもへの暴力防止）の頭文字をとったもので、子どもたちがいじめ、痴漢、誘拐、虐待、性暴力といったさまざまな暴力から自分を守るための人権教育プログラムです。

子どもを対象にしたプログラム（子どもワークショップ）では、就学前、小学生、中学生、障がいのある子、児童養護施設の子どもたちにそれぞれ発達段階にふさわしい寸劇、歌、人形劇、討論などを盛り込んで、子どもを怖がらせることなく暴力防止の具体的対処法を教えます。従来の「～してはいけません」式の危険回避の方法とは根本的に異なり、「～することができるよ」と身を守るための行動の選択肢を広げ、練習します。安心、自信、自由の人権を子どもたちにくり返し伝えることで、全ての子どもたちが本来持っている「生きる力」を引き出すプログラムです。学校や保育園・幼稚園をキーステーションとして、子ども・教職員・保護者にワークショップを提供します。

CAP プログラムの３つのワークショップ

●教職員ワークショップ
●保護者ワークショップ

以上の２つをさして
おとなワークショップという

*おとなワークショップはさまざまなおとなを対象に単独でも実施できます。

●子どもワークショップ（年齢に応じたプログラムがある）

■CAP 就学前プログラム
■CAP 小学生プログラム
■中学生暴力防止プログラム
■障がいのある子どもへの CAP プログラム
■CAP 児童養護施設プログラム

*子どもワークショップは単独では実施できません。

CAP ワークショップを受けて…

Success story サクセスストーリー

ぼくにも安心・自信・自由のけんりがあるなんてはじめて知りました。悲しい気持ちやつらい気持ちになるのはこの3つのけんりがこわれたり、傷ついたりしているからなんだと思いました。この3つのけんりを大切にしたいし、友だちのも大切にしたいです。
（小学生）

チカンが出たときCAPで習ったとおりに叫んで走って逃げておとなに話したよ。
（小学生）

中学生の娘が学校から帰る途中男に肩をつかまれ声をかけられました。「やめてください」と言っても手を放してくれないので、大声で叫び逃げて帰ってきました。娘は相当ショックを受けたようです。「大きな声が出せて良かったね」とほめてやると、「小学校 3年生の時に受けた CAPの事を思い出して声が出た」との事。当時私もCAP を受け子どもと一緒に練習していました。不審者情報があるたびにそのことを話してきたことが幸いしたようです。
（保護者）

私は今まで自分の悩みを人に相談することができませんでした。理由はもし相談したら話を広められるといやだったから。でもCAPに参加して悩みがあったら相談した方がいいということがわかりました。友だちに相談したらアドバイスをもらうことができました。そしてだんだん自分に自信を持てるようになってきました。
（中学生）

ぼくは、５年生の時ちょっといじめられていました。今、日本中でいじめによる自殺が続いています。同じ人間として悲しいと思いました。ぼくは日本中の子どもにCAPが必要だと思います。なぜかというとCAPはいじめや暴力のことについて正しく話してくれ、人権のことも話すので、いじめられている人は勇気が出るし、いじめている人も気づくと思うからです。（小学生）

クラスの生徒たちが自分たちで問題を解決しようと考えて行動するようになってびっくりでした。
（小学校教諭）

J-CAPTA ジェイ・キャプタ

一般社団法人 J-CAPTA（Japan CAP Training&Action）は、子どもの人権尊重とエンパワメントを目指して活動している CAP トレーニングセンターです。

http://j-capta.org/

unicef

公益財団法人日本ユニセフ協会は、東日本大震災の被災地で、子どもたちの安全な生活、心身の健康、発達を支える支援活動を続けています。

http://www.unicef.or.jp/